

6 月期相場概況

6 月期の日経平均株価は約 386 円下落した。期中の高値は 6/21 日中高値 10,251 円、安値は 6/30 日中安値 9,347 円

前期はギリシャショックの再燃から暴落様相であり、5/21 には一時前日比 300 円以上の下落をし、9,700 円台で引けた。週明けも弱い展開は続き日経平均は 9,400 円を割り込む場面もあったが、米国の反発で最終的には 9,768.円 で 5 月を終えた。

6 月に入ってからこの今期は前期末の流れを引き継いで反発相場となり、3 日 4 日と 10,000 円の大台回復あと一歩のところで迫った。しかし 10,000 円の大台回復、窓埋めは達成することが出来ずに再び日経平均は下落、6/9 には 5/27 安値 9,395 円を一時的に割り込んだ。しかしここからさらに売り込まれる動きはなく、6/10 には米国株も大幅反発を演じ、結局 9,705 円で 6 月 SQ を迎えた。

6 月 SQ 後も強い展開は続き、6/16 には前回の反発で達成出来なかった 10,000 円の大台を回復、その後 10,000 円台でもみ合ったが、週明け月曜 6/21 には一時 10,250 円を突破するなど強い展開を見せた。しかし、6/23 には米国景気の悪化観測とそれに伴うドル安で 1 ドル 90 円の大台を割り込み、日経平均は再び大幅に反落した。中国人民元の切り上げのタイミングも重なり、円高が進んだことと、米国指標の悪化を受けての大幅な米国株安を受けて日経平均は再度下落トレンド入り、結局 9,347 円で今期を終えた。

本資料使用上の留意点について

・本資料は当社が信頼できると考える情報ベンダーから取得したデータをもとに作成されておりますが、機械上に誤りが発生する可能性があります。当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料にて言及されている投資やサービスはお客様に適切なものであるとは限りません。また、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。本資料の論旨と一致しない他のレポートを発行している、或いは今後発行する可能性があります。本資料の利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。